

思いは実現化する?!



お客さま、お元気ですか？サーマルタンクの新洋技研工業です。今年もまた盛大に杉花粉が飛散し、連日目のかゆみとくしゃみに見舞われております。とは言え私の症状などはまだ軽いほうのようで、先日、某コンサルタント会社の新潟営業所長が転勤挨拶と後任紹介を兼ねて来社されたのですが、顔を見たら目は真っ赤、鼻はグスグス、本来ならとても人前に出れるような状況ではなさそうな様子で、見ていて気の毒なくらいでした。

このような時、人前に入る商売は辛いですね。 さて話は変わりますが・・・

私が社長になってから早や（なのか、やっとなのか？）十年が経ち、どこかの番組の「初めてのおつかい」ではありませんが、初めての経験をしました。当社が現在の場所に移転したのは平成3年、国道から少しばかり引つ込んだ場所に立っており、細い用水路を挟んだ国道沿いには建物付きの土地があるのですが、そこが今年に入ってから売りに出されたのを受け、思い切って購入しました。「清水の舞台から飛び降りる覚悟」がいるほどの額では無いですが、自分としては就任後初のまとまった買い物となるだけに結構逡巡しました（苦笑）最初は用水路が妨げになっていたことから買う気はなかったのですが、敷地内で車の置く場所が手狭になってきており、何らかの手立てを講じなければならなくなってきたこと、そしてその場所にどういう商売が入ってくるかで当社にも影響があると考えられること、その他いくつかの要因が重なり、購入を決断しました。で、それと表題とどう関係性があるのか？というところ「夢を可視化して日付を入れ、手に入った実感をし、そして手放したら手に入った」からです。というところごく恰好がよいのですが、正確には今回の土地建物を手に入れたと思ったのではなく、将来的に別の、もっと広い土地へ移転するぞーと、自分の会社の写真を、今現在いいなーと思える場所の写真に切り貼りし、移転までの日付を入れ、自分の席の後ろに貼り付け、移転したことを勝手に実感してウキウキしていたら、今回の土地建物が手に入った、というのがホントのところなんです。なので、完全に実現したわけではなく、そこに至るまでのステップの一つなのだ！と勝手に思い込んでいたのですが、もう一つ、以前から来社されたお客様や社員が和やかに打ち合せをしたり、一息つけるコーナーを作りたいと思っていたものの今の建物の中ではそれが叶わなかったのが、今回手に入れた建物の中に、どうやら実現できそうです。（喜）

日本の野鳥シリーズ

エゾムシクイ頑張る

技術営業部 佐藤 弘

ある調査地で放鳥した鳥をそこから 5km 以上離れた場所で捕獲すると、その個体はリカバリー(Rc)と位置づけられる。これは調査員による回収に限らず、うちのネコがくわえてきたズメに足環が…という場合もある。いささかありがた迷惑な思いの調査協力ニャンコではある。また、望遠一眼デジカメとパソコンを駆使するベテランが、動き廻るシギの足環全周を撮影して刻印を読みとり、それを山階鳥研に照会した結果、カムチャツカで放されたモスクワリングと判明した例がある。ロシアの研究者ゲラシモフ博士の調査だったらしい。

極めつけの Rc をご紹介しよう。白鳥渡来地として知られる新潟県の瓢湖で大先輩が放したオナガガモが、米国南東部フロリダでハンターによって回収された事例がある。島のない太平洋を直接横断したとは考えにくく、千島列島とアリューシャン列島伝いにアラスカに渡ったと思う。その後、北米大陸西岸を南下してメキシコを横断したか、あるいはカナダを横断して東岸を南下したのだろう。行きも往ったり、まさかの壮大なスケールだ。

私たちの調査地新潟市関屋海岸は日本海側を渡る鳥の幹線ルートらしく、Rc は結構ある。その一羽、09年4月末に捕獲したエゾムシクイの足環番号を鳥研に問い合わせたところ、07年8月末に北海道最南端の白神岬で放されたものと分かった。越冬のために南下を始めて、津軽海峡を渡る直前だったようだ。以降20ヶ月、どんな体験をしたのかできるものなら訊いてみたい。

メボソムシクイの稿で述べたように本種は東南アジア、具体的にはインドシナ半島内陸部で越冬する。だから、二年連続して現地で冬を過ごしたと分かる。そして08年には生まれ故郷で繁殖活動に参加した。さらに09年春にも日本に戻り繁殖地に向けて北上中に、新潟で捕まったことになる。関屋には国外 Rc の記録はまったくない。このエゾムシクイが日本と東南アジアを二往復したことを物語る、唯一貴重な存在だ。その先どれくらい生きたか気になるが、その後の消息は途絶えたようだ。小鳥類の平均寿命は1歳に満たないだろうと言われている。

知人が某発展途上国の屋台で足環を着けた焼き鳥を見たという。ネコより始末が悪い屋台のオヤジをどうしてくれよう。

事業サポート・新規事業PJ 山本 知男

この” ちょっと一息” も段々ネタ切れになってきて、再三原稿催促を受けていますが、良い話が見つからず遅れてしまってます。困っていたところ、私の好きなラジオ番組の” 山下達郎のサンデー・ソングブック” の中の” 棚ツカ” を思い出しました。達郎さんもネタに困った時、数あるCD、レコードのコレクション棚から一掴みして持ってきて、それを掛けながらウンチクを語るのですが、私も真似しようと思いつきました。それで早速棚を見たんですが、私の場合は棚ツカを 10 回位したら、終わってしまう程度しかなく、ま、それでもエイヤッと一掴み。

なかなか思い出深いコレクションに当たりました。

ベートーベン交響曲 7 番、皆さんもご存じの通りベートーベンは 9 つのシンフォニーを作っていて、その 7 番は” ノダム” で使われていた曲です。その他 3 番英雄、5 番運命、9 番合唱付きと奇数番は有名どころですが、何故か偶数番は 6 番田園以外はあまり有名でない。でもベートーベンは偉大です。続いてはチャイコフスキー交響曲 6 番” 悲愴” これは泣ける曲で、この曲を聴くと必ず涙が出て来ます。特に第 1 楽章の終盤に低音金管楽器群が重苦しく動哭するが如くに鳴り響いた後に、バイオリンが主題をゆっくりと奏でる。そこが涙腺を揺すぶる所で、もう何十回も聴いてるんですが、ここに来ると必ず涙してしまふ。ファンの中にはあまりにも絶望してしまうので聴きたくない曲とも言われている名曲です。それからラフマニノフ交響曲 2 番、これの第 3 楽章が堪なく良い。クラリネットが朗々と美しいメロディを感情込めて奏でます。クラ吹き憧れの曲です。この曲を思う通り演奏出来たら、もう死んでも良いって思える程の感動の曲です。そしてモーツァルト、シベリウス、プラス全集…、エッ？何故か安室奈美恵” SWEET19BLUES”、もう 20 年くらい前の曲かな？。この頃ファンだったなあ…って思い出しました。

私はミーハーで、昔は南沙織が好きで、それから山口百恵、松田聖子…、今では AKB、いい年して恥ずかしいですが、そういうのがまだ好きで(^_^;)。しかし懐かしいなって聴いたら、「何してるかと思ったら、また安室聴いてる。貴方幾つになったと思ってるの？」と、ママが冷ややかな眼差しで見ました。自分でも恥ずかしいとは思うけど、ちょっと昔を懐かしんで若返ろうかなと思ったのに。とんだ” 棚ツカ” になってしまった。

◆ ちょっと豆知識 ◆ その 23 「はしか」 技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

「はしか」と言っても小欄で取り上げるのは麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性疾患のことではありません。人間は酒造りにおいても刺激を求め、当初の製品設計からインパクトの強い方へシフトして行き、その後揺り戻しで元に戻ることにメタファーとして、私は好んでこの言葉を使います。以下、実際に自身が経験したことも交えていくつかのエピソードをご紹介します。

【グルコース濃度】

大吟醸酒（特に出品酒）に関して言うと、かつては製成酒で良いとこ 1%位の濃度だったのが、樋口もやしの「ハイ G」発売を機にグルコース濃度はどんどん高くなり、新潟県内では 3%台半ば位の酒を作っておられたお蔵もありました。その後「やり過ぎた」との反省？から減少に転じ、統計的な数字は手元にありませんが、新潟の場合、近年相当低い数値に落ち着いたように聞いております。

一方、お隣の某県は毎年のように全体的に甘くなっているようで、お客様のところを春先訪ねると「成田君、今年の大吟もまた甘くなってた…」とため息交じりのコメントをお聞きします。「はしかです、はしか。一度皆かからないといけない病気なんです」と返すと皆さん苦笑いされます。

【カブロン酸エチル濃度】

こちら K1601 や M310 酵母の出現で、かつては聞くことの無かった 6ppm とかいう数字を耳にするようになりました。H12 年前後だったかと記憶しています。

最近だと K1801 や広島酵母を使った酒で、15ppm とか強烈に「カブカブした」酒も出現しているとのこと。

こちらもしずれ適切なところに落ち着くのだと思います。

【スパークリング製品の炭酸ガスの強さ】

「微炭酸の製品を造りたい」とのご相談を受けて設備を導入。商品化したところ取引先や営業サイドからの「もっとシュワシュワしたものが欲しい」との声に押されてビンやキャップ、製造設備の許容限度までガスが強くなって行き、バランスが崩れてガスの強さが元に戻っていく…。スパークリング製品は殆どの方々がこの道を進むように思います。

これらのことから分かるのは、インパクトの強い酒を造る誘惑に抗うのはなかなか難しい、ということ。

はしかは早めにかかっておくのが良いのかも知れません。

真原はファッションと好奇心の迷路

エッセイ

生産部 島貴 修一

表参道を青山通り方向へ進み、表参道交差点の手前からちょっと左に曲がり裏道に入れば、そこはファッションの魔界？裏原（裏原宿）。ここの何が面白いかというと、それは既存の秩序にとらわれない自由奔放な街並み。

観光地には蔵作りの建物や木造建築の街並みを残している所が多い。街全体を一つの価値観で統一したテーマパークみたいなもので、それ自体は見ごたえがあるし大切に保存して欲しい。しかしたった一種類の花で満ちた庭のようで好奇心が湧かない。

それに対して裏原には統一という概念がない。元々は住居エリアだった所にファッション関係の店が無秩序に進出したため、新旧の住居と店が混在状態。店も帽子に服に靴にバッグに装飾品に美容室にネイルにアイラッシュにインテリア小物と何でも有り。更にそれぞれの店が個性を主張した独自の店作りをしており、色使いもデザインのセンスも地味から派手までやりたい放題。でもなぜか違和感なく街に溶け込んでいて、人の手を加えない自然界みたいなもので、多種多様な花が咲き誇っているように見える。

そんな裏原の起伏ある地形と狭くて複雑な道を歩くと、角を曲がる度に、路地に入る度に発見があり、うーんと唸ったり唾然としたり感心したりと飽きることがない。好奇心の導くままに右に左にさまよっていたら、千駄谷小学校の近くで明治通りに出た。昼近くだったので原宿駅まで歩き、電車で次の目的地に向かった。自由が丘へ。

昼食は渋谷でチーズカレー。天丼が食べたかったんだけど店が移転していた。

